

大雨(土砂災害) ため池決壊

土砂災害は、建物に壊滅的な被害をもたらす、一瞬のうちに尊い命を奪ってしまう恐ろしい災害です。また、ため池は大雨や地震によって堤体が決壊し、下流域に被害をもたらします。

土砂災害(特別)警戒区域

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、市民の生命又は身体に危害が生じるおそれがある区域

【美馬市:1,445箇所】

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ市民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

【美馬市:1,397箇所】



※いずれも知事が市町村長の意見を聴いた上で指定することとされています。(美馬市の箇所数は令和3年11月現在)

土砂災害警戒情報

大雨警報(土砂災害)が発表されている場合で大雨による土砂災害発生危険度が更に高まったときに、徳島県と徳島地方気象台から共同して発表されます。美馬市の場合、旧町村単位で発表されます。

土砂災害警戒情報は警戒レベル4の情報ですので、危険な地域にお住まいの方は全員避難してください。

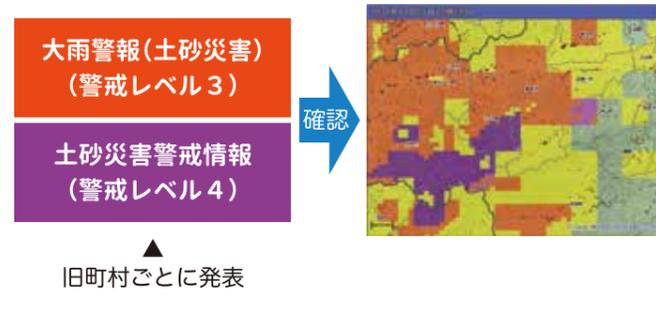
地震による土砂災害にも注意が必要です

土砂災害は、大雨だけではなく地震による揺れによっても引き起こされます。

平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震では、多くの場所で土砂災害が発生しました。

土砂キキクル

大雨による土砂災害の危険度の高まりを、気象庁ホームページで5段階に色分けして示しています。



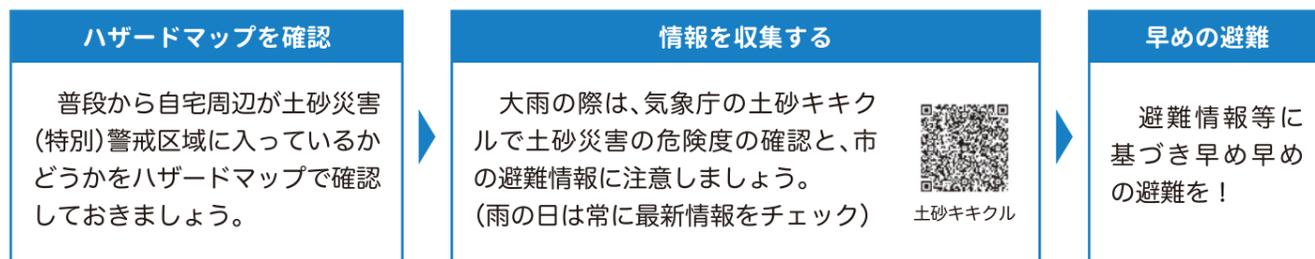
気象庁「土砂災害警戒情報・土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)」より

土砂災害の恐ろしさ

昭和42年から平成23年までの自然災害(阪神・淡路大震災及び東日本大震災を除く。)による死者・行方不明者数のうち土砂災害によるものは41%で最多です。一度巻き込まれたら助かることが困難な土砂災害の恐ろしさを知っておきましょう。

国土交通省・気象庁「近年の土砂災害・被災者の傾向」より

避難のタイミング

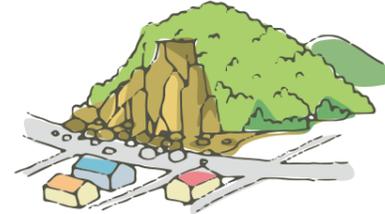


避難のポイントはP13.14に掲載

マイ・タイムラインの作り方はP15に掲載

土砂災害の種類とその前兆現象

がけ崩れ

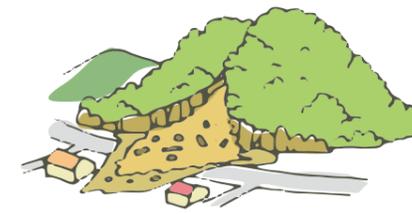


豪雨や地震などによって、斜面の地表に近い部分が急激に崩れ落ちる現象

前兆現象

- がけにひび割れができる
- がけから水が湧き出る
- 小石がパカパカと落ちてくる
- 湧き水が止まる、濁る

土石流

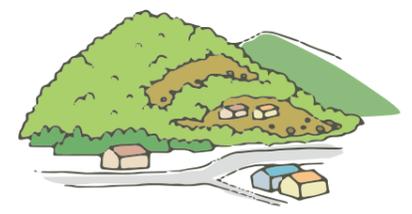


長雨や集中豪雨によって、溪流において山腹崩壊で生じた土砂や石が水と一緒に流下する現象

前兆現象

- 山鳴りがする
- 腐った土のにおいがする
- 川の水が濁り立木が流れ始める
- 雨が降り続けているのに水位が低下

地すべり



地下水の影響と重力によって、ゆるやかな斜面の一部あるいは全部がゆっくりと滑り落ちる現象

前兆現象

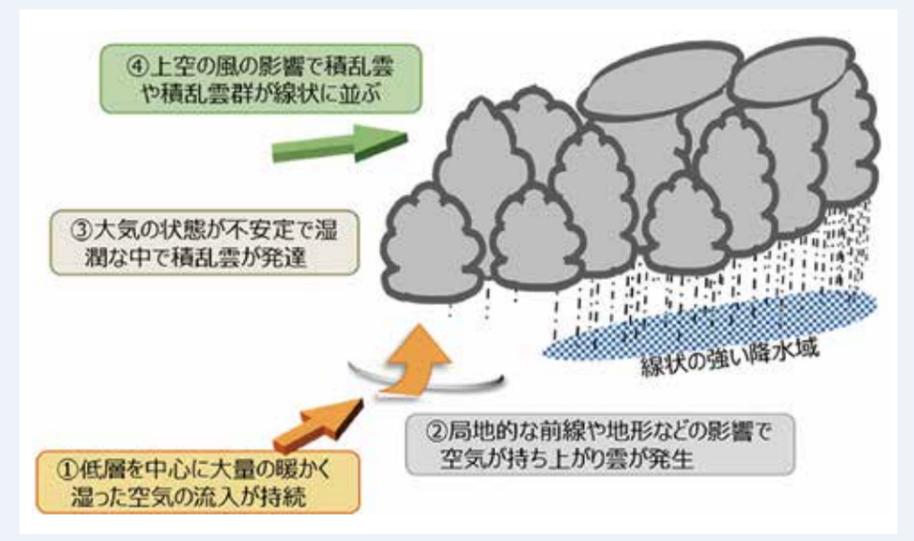
- 沢や井戸の水が濁る
- がけや斜面から水が噴き出す
- 亀裂や段差が発生する
- 地面にひび割れや陥没ができる

内閣府「防災情報のページ」より

キーワード：線状降水帯

次々と発生する発達した雨雲が列をなした積乱雲群によって、数時間にわたって、ほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水を伴う雨域のことをいいます。

気象庁は、大雨による災害発生危険度が急激に高まった場合、線状降水帯による大雨に関して『顕著な大雨に関する情報』として発表しています。これは、「警戒レベル4」相当以上の情報です。



気象庁「顕著な大雨に関する情報」ページより

ため池決壊の起こり方

直近10年間におけるため池の被害は、約79%が豪雨、約21%が地震によるものです。東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の際も、地震の揺れによりため池が決壊し、死者・行方不明者8名を出す大きな災害が起こりました。

地震による地盤の液状化や大雨での越水や漏水による堤体の決壊などにより、下流域に向かって氾濫流が発生します。普段から「ため池ハザードマップ」を確認し、氾濫流の区域や到達時間を把握しておき、大雨警報や土砂災害警戒情報、緊急地震速報などが発表された場合は、避難してください。